

# 山筆

第38号 / 2005年7月

## 土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/西岡 恒憲(41回)

編集室: 〒106-0032 港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 編集委員 鶴和千秋(41回)  
TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201 E-mail: tsuruwa@rsg.gr.jp

関東支部ホームページ: <http://www.tosako-kanto.org/>



今年の総会で記念講演を行う前駐ガーナ特命全権大使の浅井和子さん(35回生)

### 安易なる文武両道を排す

野波 博泰(26回生)

甲子園では数多の校歌を聞くが、我が母校のそれに勝るものはない。

我々は、終戦の年の旧制土佐中学一年生である。七月四日の空襲で焼け出され、尾川村、土佐山田町と流離い、拳げ句、種崎の海軍航空隊の兵舎の廃材を運んでバラックの校舎を建てた。窓は障子だったが、漸く自前の校舎に落ち着いた気分は格別だった。即製の教師陣だったが、授業は活気に満ちていた。京大出の歴史の先生は、シュツルムウントドラックなどと言って我々の知的好奇心を擽った。程なく裁判所に転じた。

海兵出の英語の先生は、揚子江で撃墜した中国軍の米人パイロットに、アニューサーステイと水を飲ませたと話した。程なく警察予備隊に転じた。

校舎の建設に共に汗を流した我々と大嶋校長の絆は強かった。我々は校長を敬愛し、校長は我々に恩義を感じた。後年、校長は、上京した時は、宿舍の県事務所に我々を呼んで、すき焼きを食わせてくれたりした。

土佐は、その歴史に明らかな通り、本来進学校である。

文武両道は、開校記念碑文にも確かにそうあるが、安易なる文武両道は、土佐の独自性の喪失に連る。須く建学の本旨に則り、文主・武従の基本原則を再確認すべきである。

それでも武は十分に愉しめる。既に亡き同期の山村泰造君は、土佐高硬式野球部創設期のエースとして活躍した。甲子園は遠い夢のまた夢であったが、東大文科一類に進学を果たした。それでいいのだ。甲子園は明徳に委せておけばよい。武運あつて甲子園出場の栄冠を得れば、赤飯を炊いて祝うが良い。募金はヤマと集まるであらう。

# 平成17年関東支部総会・大懇親会

平成17年度土佐中学・高等学校同窓会関東支部総会及び大懇親会は5月28日(土)ホテル グランドヒル市ヶ谷に於いて開催されました。三五名余の同窓生が参集し盛大に挙行されました。

母校から池上武雄校長先生をはじめ、同窓会本部・各支部から多数のご来賓にお越し頂きました。

今年の記念講演は浅井和子前駐ガーナ国大使(35回)の「はちぎん大使奮闘記」と題



する講演でした。土佐高初の大使として、また数少ない女性大使として、ユニークな発想で、ガーナ国との友好関係を築くお話を同窓生一同熱心に聴講いたしました。

今年5の回生(25、35、45、55、65、75)の同窓諸君による総会・懇親会の運営がなされました。

## 大懇親会



泉谷支部長の開会の挨拶



乾杯の首領は古谷先生



紹介される三枝先生



今年卒業の80回生が紹介される



5の回生から6の回生へバトンタッチ



### 関東支部活動報告

事務局長 金澤由里(55 回生)

新年明けて1月20日、恒例の筆山会が開催されました。

2月12日(土)には学年幹事会が開催され、昨年の活動・会計報告などが行われました。同日、4の回と5の回の総会実行事務引継ぎが行われ、いよいよ総会へ向けて始動しました。

5月28日(土)同窓会関東支部同窓会総会・懇親パーティーがホテルグランドヒル市ヶ谷で開催されました。総勢三三五名の出席者、来賓としては、母校、本部、香川支部・広島支部・関西支部・東海支部、設立前の北海道支部から、また恩師の古谷俊夫、三枝重宣両先生にもご臨席賜りました。講演会の講師には浅井和子前カーナ共和国特命全権大使(35 回生)をお招きし、「はちきん大使奮闘記」夢と希望を持って人生に挑戦」と題してご講演いただき、会場ではカーナ関係写真パネル、国旗ケンテ布などを展示し、カーナでよさこいのビデオの上映も行われました。

懇親パーティーでは、ご来賓の皆様、新会員になられた80 回生の紹介を交えながら1時間半、食べることも忘れ、たづぷりご歓談いただきました。

今年は、私も初めて世話役として企画、運営をして参りました。「若手に役立つ同窓会」というコンセプトを進めることになり、総会、講演会の時間を短縮、質疑応答の時間を設ける企画になりました。55 回生は担当外の部分にまで立ち入り、総会、講演会講師担当の35 回生、栞担当の45 回生の先輩には、ご迷惑をおかけしつつも我慢強く見守っていただきました。75 回生には直前に役割を振ったにもかかわらず、懇親会司会、名札の作成、受付案内などスマー

トかつパワフルにこなしてくれたことをとても頼もしく感謝しています。栃木から不安顔で準備会に出席してくれていた75 回生の藤原くんは、総会当日、同級美女連に支えられて大活躍でした。三五 個のカーナチョコのラッピングにパネルの装飾を1人でやり遂げた55 回生の田口さん、貴女の情熱は同期に元気を与えてくれました。蝶ネクタイ、

リボンを作成してくれた総会世話人の57 回生の西森さん、今年の総会は貴女の作品も含め美術賞ものだったと自負しています。おおらかで自由を重んじる校風はわが母校の伝統でしょう。

目標参加者三 名、早い時期に全開で動き出した35・45 回生、だいぶ遅れてボチボチ動き出した55 回生、直前の追い込み激しかった75 回生、それぞれが自由に自分達のやり方で行動し、全体として軽く目標を超えられたことは意義深いことでした。35 回生出欠管理担当の中村さんには最後までお世話になりました。時間割や名札を変更することも、最初は面倒だと思いましたが、挑戦してみることが大事だと今は思えます。今回、初めて世話役学年となり、それぞれの回生の方々とお近づきになれたことは、振返ってみれば楽しく、貴重な体験でした。来年もまた総会で会えることを今から楽しみにしております。



### 母校だより

学校長 池上武雄(28 回生)

新緑の候、関東支部の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は学校運営につきまして格別のご支援を賜わり有難く御礼申し上げます。特に毎年実施いたしております高1生の修学旅行で、本校ならではのコース別研修は、関東地区の諸先輩のご協力がなければ決して出来ないことで、格別のお世話をいただき大きな成果をあげておりますことを生徒ともども心から感謝申し上げます。今年も11月22日からを予定いたしております、ご面倒をお掛けいたしますが何卒よろしくお願い申し上げます。さて、本年度の大学入試結果は、残念ながら昨年の成績には及びませんでした。現役生の合格率は67%(昨年71%)で、国公立大への現役合格は一一五名と一応の目標一

名は超えることができました。いわゆる難関大学(旧帝大7校・東工・一橋・神戸)の合格者36名中22名が現役で、難関大においても現役主導の

合格状況でした。主なところ(含む過年度生)では、東大2名(昨年7)、京大9名(昨年12)、阪大11名(昨年11)でしたが、2年振りに東大理に現役1名が出たのはうれし

いことでした。私立大では、総数は過年度生的大幅合格者減から一名程少なくなりましたが、現役生は早慶上智で31名(昨年31)、関関同立75名(昨年79)と健闘し、ほぼ昨年通りの結果を収めました。しかし東大、一橋、東工の首都難関大には今年3名(昨年10)と振るわ

なかつたほか、国公立医学部医学科の合格者も12名(昨年24)と減少したことが反省材料です。再度来年を目指す卒業生も例年並みの一名前後となっておりますので捲土重来を期待しておりますことろです。次に平成17年度高校県体の成績をご報告いたします。6月実施予定の水泳や四国大会での成績待ち(陸上競技、自転車競技など)を除く5月末現在でインターハイ出場を決定している種目、人員は次のとおりです。県体優勝の団体では、剣道男子(5)、登山男子(4)、個人では弓道男

子(1)、剣道男子(1)、テニス女子(1)、バドミントン男子ダブルス(2)、の14名が決定しております。またよく健闘惜しくも第2位となりインターハイ出場権を逃した団体種目は、バドミントン男子、弓道男子(但、四国大会に優勝すれば出場権獲得)、ソフトボール男子でした。

最後に校舎改築についてありますが、日建設計・現代建築計画JVと校内建築委員会を中心に基本構想、基本設計に向けてこの一年間鋭意検討を進めて参りました。基本的な考え方は、現在地塩屋崎町に工期を何期かに分けて改築するというものでしたが、専務理事である私が設計監理委託契約に関する手続上の不

手際と契約金額の検討不十分、総投資額の過大等のご批判もあり、改築計画を大きく見直すことがこの度の臨時理事会で決定されました。私の不行届きから関係の皆さまに大変ご迷惑をお掛けすることになり誠に申し訳なくお詫び申し上げます。二二年の百周年に向けて土佐中高が堅実に発展してゆくよう慎重を期すことを求められたものであり、大いに反省をするとともに教

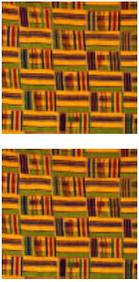
職員は勿論のこと、振興会、同窓会の皆様方の信頼とご協力をいただけるよう誠心誠意努力して参ります。そして、この校舎改築という大事業が今後順調に進められるよう万全を期す覚悟でございます。

なお、校舎改築見直し案は本年7月の評議員会、理事会迄に再検討を行った上でお諮りする予定です。従いまして建築資金の募金活動も併せて見直しをして、改築校舎の概要が図面でお示しできる段階で具体的にお願しいたいと考えております。

今年も中学二五名、高校三一(うち他中学からは67)の新入生を迎えることができました。新入生、教職員ともども全員が志高く、より活力ある文武両道を目標に頑張つて参りますのでどうか変わらぬご支援のほどお願い申し上げます。

関東支部同窓会員の皆様のご健勝、ご多幸と関東支部のますますのご発展を祈念申し上げて報告いたします。

(平成17年夏月)



### 本部だより

幹事長 安岡範悦(39 回生)

早いもので、五 名を超える参加を頂き、母校で総会を開催してから1年を迎えようとしています。私達本部役員も、総会でお約束した事業計画案について順次実践しておりますが、中でも主要行事である総会、同窓会名簿発行について近況をお知らせ致します。

去る4月2日の役員会(本部役員、幹事、代表幹事、会計監査等による会)やホームカミングデー実行委員会、名簿作成委員会での様な概要を決定し準備をすすめております。

二 五年総会について 8月13日(土)に昨年同様母校土佐高校で開催します。

昨年の「門をくぐれば懐かしいの我母校土佐高校」のキャッチフレーズから「ここから始まった、自分に帰る」に、中澤節子先生をはじめ懐かしい恩師の授業、大好評を博したプラスバンドOBと現役の合同演奏、等等、企画しお待ちしております。また、当日はよ

さこい祭りを締めくくる花火大会の日でもあり、得月楼での懇親会も懇親会終了後、花火見物ができるよう配慮しております。是非多くの同窓生の参加をお願いします。

同窓会名簿発行について 母校は大正9年創立され、本年は創立85周年の記念すべき年でもあります。同窓会名簿の発行は記念事業の一つでもありますが同窓会独自の事業として5年ごとに行われており、今年が発行年にあたります。この名簿が会員相互の交流、発展の一助となり同窓会活動の活性化、母校の一層の発展につながるようお願いをこめ10月発行に向け努力してまいります。準備にあたっては

個人情報保護の立場から使用目的、取扱方法に十分留意するとともに、同窓会としての理念を明示する。調査カードにおいて掲載事項の可否も調査し尊重する。夫婦、親子などダブリ送付を防ぐ為、注文方式を取り入れる。

広島掲載業務については(株)高知広告センターに委託する。等を基本的な考えとして取り組んでいますが何と云って

も大切な事は最新の会員情報の収集です、本年の卒業生を加えた同窓会員は一八八名ですが約四分一の名が住所不明(含む転居先不明)となっております。会員名簿調査に格別のご協力をお願い致します。

結びに同窓会活動の原動力としてご協力、ご活躍いただいている関東支部の役員、会員の皆様に感謝申し上げます。

### 北海道支部だより

広報幹事 先川信一郎(45回生)

副幹事長 島村昭範(49回生) 土佐中・高同窓会北海道支部設立総会が6月11日午後札幌グランドホテルで盛大に開催されました。設立総会には母校や各支部からの来賓12人を含め、合計約30人が出席。田原哲士支部長(37回生)の「今後、土佐校同窓生の志を世界に広げていこう」との挨拶の後、窪田秀忠幹事長(38回生)が新役員を紹介、島村昭範副幹事長(49回生)が北海道支部の会則を説明しまし





た。来賓挨拶では、お祝いのために駆けつけていただいた池上武雄校長先生から、母校の新校舎建設計画や野球部を筆頭とする各運動部などの全国大会、インターハイでの活躍ぶり、最近の進学率などを詳しく報告していただきました。そのお話しを伺いながら、北海道在住の同窓生が筆山のサクラや浦戸湾、熱のこもった授業、苦しかったクラブ活動など、輝かしい青春のイメージを懐かしんだことは言うまでもありません。

この後は、いよいよ待ちかねた懇親会。窪田秀忠幹事長（38回生）の「迷司会」で、同窓会本部の安岡範悦幹事長（39回生）や関東支部の泉谷良彦支部長（29回生）の挨拶のあとはもう、飲んで飲んで、高知を語り、世界を語り、池上校長、森本先生、小村先生らを囲んで大宴会。安岡氏の干ルで応援歌、校歌を力いっぱい歌って締め、まだ意識のある人たちが夜のススキノの二次会に繰り出しました。

見を聞きながら、北海道らしく、大自然のど真ん中に集まったり、温泉宿を利用したり、と多彩な企画を考えていきたくと考えちよります。北海道在住の同窓生は50名ですが、全国の同窓生との交流も進めていきたいと思えますので、よろしくお願い致します。

な、東海支部における年間の主な行事は、5月の総会と12月の冬季懇親会ですが、近年、参加者数が伸び悩み気味で、若い方の参加も少ない状況となっています。当支部の「番外」行事として、毎月第二水曜日の夕刻、有志により「二水会」の宴を開き、気軽に親睦を図っています。関東から東海地方へ転勤などされた方は、是非、当支部の行事にも御参加ください。

た。来賓挨拶では、お祝いのために駆けつけていただいた池上武雄校長先生から、母校の新校舎建設計画や野球部を筆頭とする各運動部などの全国大会、インターハイでの活躍ぶり、最近の進学率などを詳しく報告していただきました。そのお話しを伺いながら、北海道在住の同窓生が筆山のサクラや浦戸湾、熱のこもった授業、苦しかったクラブ活動など、輝かしい青春のイメージを懐かしんだことは言うまでもありません。

この後は、いよいよ待ちかねた懇親会。窪田秀忠幹事長（38回生）の「迷司会」で、同窓会本部の安岡範悦幹事長（39回生）や関東支部の泉谷良彦支部長（29回生）の挨拶のあとはもう、飲んで飲んで、高知を語り、世界を語り、池上校長、森本先生、小村先生らを囲んで大宴会。安岡氏の干ルで応援歌、校歌を力いっぱい歌って締め、まだ意識のある人たちが夜のススキノの二次会に繰り出しました。

見を聞きながら、北海道らしく、大自然のど真ん中に集まったり、温泉宿を利用したり、と多彩な企画を考えていきたくと考えちよります。北海道在住の同窓生は50名ですが、全国の同窓生との交流も進めていきたいと思えますので、よろしくお願い致します。

な、東海支部における年間の主な行事は、5月の総会と12月の冬季懇親会ですが、近年、参加者数が伸び悩み気味で、若い方の参加も少ない状況となっています。当支部の「番外」行事として、毎月第二水曜日の夕刻、有志により「二水会」の宴を開き、気軽に親睦を図っています。関東から東海地方へ転勤などされた方は、是非、当支部の行事にも御参加ください。

な、東海支部における年間の主な行事は、5月の総会と12月の冬季懇親会ですが、近年、参加者数が伸び悩み気味で、若い方の参加も少ない状況となっています。当支部の「番外」行事として、毎月第二水曜日の夕刻、有志により「二水会」の宴を開き、気軽に親睦を図っています。関東から東海地方へ転勤などされた方は、是非、当支部の行事にも御参加ください。



**東海支部だより**

- 幹事 山崎博司(44回生)
- 副幹事 有岡佐和(78回生)
- 幹事 山岡敏一(25回生)
- 幹事 弘光喬(31回生)
- 幹事 武田光(38回生)
- 幹事 服部弘(49回生)
- 幹事 石川多香(68回生)



た。来賓挨拶では、お祝いのために駆けつけていただいた池上武雄校長先生から、母校の新校舎建設計画や野球部を筆頭とする各運動部などの全国大会、インターハイでの活躍ぶり、最近の進学率などを詳しく報告していただきました。そのお話しを伺いながら、北海道在住の同窓生が筆山のサクラや浦戸湾、熱のこもった授業、苦しかったクラブ活動など、輝かしい青春のイメージを懐かしんだことは言うまでもありません。

この後は、いよいよ待ちかねた懇親会。窪田秀忠幹事長（38回生）の「迷司会」で、同窓会本部の安岡範悦幹事長（39回生）や関東支部の泉谷良彦支部長（29回生）の挨拶のあとはもう、飲んで飲んで、高知を語り、世界を語り、池上校長、森本先生、小村先生らを囲んで大宴会。安岡氏の干ルで応援歌、校歌を力いっぱい歌って締め、まだ意識のある人たちが夜のススキノの二次会に繰り出しました。

見を聞きながら、北海道らしく、大自然のど真ん中に集まったり、温泉宿を利用したり、と多彩な企画を考えていきたくと考えちよります。北海道在住の同窓生は50名ですが、全国の同窓生との交流も進めていきたいと思えますので、よろしくお願い致します。

な、東海支部における年間の主な行事は、5月の総会と12月の冬季懇親会ですが、近年、参加者数が伸び悩み気味で、若い方の参加も少ない状況となっています。当支部の「番外」行事として、毎月第二水曜日の夕刻、有志により「二水会」の宴を開き、気軽に親睦を図っています。関東から東海地方へ転勤などされた方は、是非、当支部の行事にも御参加ください。



機会がありましたら、是非一度、名古屋にお越しください。

### 関西支部だより

幹事 上田良平(52回生)

関東支部の皆さん、こんにちは。そして、52回生の皆さんお元気ですか？また52回Kホームの紳士淑女のみんな、どうしゆうでえ？

さて関西支部では、毎月第二木曜日の18時より懇親の宴を大阪三井物産ビル4階・季節膳房で開催しています。関東支部の皆様も関西方面出張の際はぜひお立ち寄り下さい。

また、「巨大なる田舎」と揶揄される名古屋ですが、本年、都心の栄に観覧車を備えたアトラクションビル「サンシャインサカエ」、三越専門館「ラシック」、さらに「名古屋港イタリヤ村」、金山駅前の「アスナル金山」などの新名所が誕生し、名古屋駅前では、目下、JRセントラルタワーズを上回る高さとなるミッドランドスクエア(トヨタビル)など高層ビルの建築工事も次々に進められています。

そんな折、私が新年会に引き続きその集いに出席させていただくよつになりますと、だんだんとずづつしくなりまして、関西支部の一翼を担っている原田和人氏(56回生)に、多に先輩風を吹かせて気分よく講釈をながながと始めていたところ、突然名譽ある「筆山」への寄稿を依頼され、一瞬で凍りついてしまいました。しかしながら、それまで偉そうに言っていた手前冷静を装い、快諾したふりを

するのにならしてこずつた次第です。とは言いましても、何か新しいことにチャレンジしてみようという気持ちも確かにあり、また故岡村熊長先生が授業中によく「嫌な顔をせんと何でもやりましようーくじやるつが。」と熱くご指導されていたことを思い出して、拙い文を見ていただく事にさせていただきました。

この岡村先生の言葉を最初に耳にしましたのは、新グラでの授業中でした。ソフトボールやサッカーなど人気がある球技の授業が続いていましたので、「今週もそつだろつなあ」と集合したところ、何とその日はグラウンドの小石ひろいとマラソン。愕然とする

私たちに雷が落ちたのは一瞬の後でありました。当時は先生が教えようとなされた深い意味を理解することはできなかつたように思われます。しかし、この全方向積極打法は、社会人として、特に営業職をナリワイとしている私にとって、



金科玉条の響を打ち続けているのであります。

そんな関西支部の集りで話題にあがるのは、やっぱり、わが土佐高野球部の話が一番でしょう。純白のユニフォーム、左胸の校章、そして、言わずと知れた全力疾走。「我が誇る白の精鋭たちに栄光あれ。」

そして彼らを懸命に応援する超満員のアルプス席の我々OBたち。話はどんどん佳境に入り、夢が現か、関西支部の夜は益々ふけていくのであります。

### 広島支部だより

幹事 山本 紳(55回生)

5月28日の関東支部総会、三 名を超えるはちきん・いごつそのつ参加で大盛會おめでとつございました。私も広島支部を代表してまた卒業年度に5のつく幹事回生として参加させていただきました。

講演会から立ち見がでて、懇親パーティーでは文字通り立錐の余地のないくらいの大入り満員で土佐高の心意気と愛校心を肌で感じました。私達55回生も20名を超える参加

で、大いに盛り上がり2次会3次会と時の経つのも忘れ、いい酒を飲むことができました。

卒業してクラスや学年同総会、支部総会などによく出席しますが、大変楽しく面白い。これも少年の多感な時期を「土佐」で学べたからだ、そう思います。名物先生が教鞭をこられ、勉学と共に、今、何が大切なのか、正しいことは何か、ということも同時に教わつたと今改めて感じます。

さて我が広島支部も毎春秋に総会を開催しています。関東支部のようにいきませんが縁あって広島近辺に在住する卒業生30名前後が参加し懇親を深めています。毎年、卒業生を講師にお招きし色々興味深いお話を聞くことができます。その後は、声高らかに乾杯し、ただ飲むのではなく自己紹介・ペアになった相手同士を紹介する他己紹介など趣向を凝らして、いい時を過ごしています。

関東支部の皆様も、秋のいい時期ですので観光がてら広島支部総会にご参加ください。ちょうど牡蠣がシーズンインする頃で旨いですよ。広島市内や宮島・尾道を自称名ガイ

ドがご案内します。末筆になりましたが、この筆山お読みの方々のご健勝と関東支部を初め同窓会の益々のご発展を祈念して筆を置きます。

### 香川支部だより

北村伸一(45回生)

#### 高松港頭地区の大変貌

35年前の学生時代には、高知発「急行足摺号」、高松から「宇高連絡船」、宇野から「快速鷺羽号」、新大阪から「新幹線」を利用して十数時間を掛けて上京しました。帰省時の移動の楽しみは、何と云っても宇高連絡船の後部甲板で「さぬきうどん」を食べることでした。そして、高松港につくとダツシユで列車の席取りをするのも定番でした。その懐かしく思い出される旧高松駅、高松港及び周辺地区10数ヘクタールを埋め立て整備する港頭地区再開発は、計画調査から20余年を経て、新しい施設が順次整備されてきました。それが「瀬戸の新都 舵は未来へ」を標榜した21世紀の新拠点「サンポート高松」です。主要施設は「港

湾旅客ターミナル」「全日空ホテルクレメント高松」「JR新高松駅」「多目的広場」「地下駐車場」「地域熱供給基地(EGC)」、そして中核施設の「高松シンボルタワー」が平成16年春完成しました。今後は、国の合同庁舎A棟が既に着工しており「同B棟」も予定されています。

「高松シンボルタワー」は高さ一五一メートルのタワー棟(地下2階 地上30階)とホール棟(地下2階 地上7階)で構成され、延べ床面積は一三、四三二平米のサンポート高松を先導するフラッグシップ(旗艦)となる施設を目指しています。主な施設はホール棟には高松市民会館「サンポートホール高松」、民間の商業施設「マリタイムプラザ高松」、タワー棟は低層階に香川県の施設「情報通信交流館」「かがわ国際会議場」、9・28階は「サンポートビジネススクエア(オフィス・カルチャー・クリエティブ)」、29・30階は「展望レストラン」と「展望施設」になっています。展望レストランは「鉄人のレストラン」と言われ、フレンチの鉄人(石鍋 裕氏)、「ROYAL 高松 by ALICE」、



中華の鉄人(陳 建一氏)「Szechuan restaurant 陳」、和の鉄人(中村 孝明氏)「中村孝明 TAKAMATSU」が来店しています。因みにランチの価格はそれぞれ三五円 一五 円、一二 円です。また、商業施設の中には全国から行列の出来る人気ラーメン店(山頭火ほか6店)が四国初上陸をしました。これらの施設のお陰でオープン当初の昨年4月から8月までは休日と言つに及ばず平日も大盛況で混雑をしていました。残念ながらも今は・・・。

目の前は瀬戸内海です。北側の窓からは右手前に「女木島(鬼が島)」、正面には対岸の岡山県水島、左手奥には本四架橋「瀬戸

大橋」そして美しい「サンセット」が臨めました。また、東側の窓からは「屋島」、眼下には高松城址「玉藻城」が一望できました。会場の初期の打診(資料・会費費・メニュー)は同ビルの9階のテナントに入居している私の役目となりました。コクヨの担当の女性に「日時」「団体名」「使用内容」「価格」「仕出店・メニュー」と順次打合せをしていった次第ですが、団体名の「土佐中・高等学校同窓会香川支部」と聞いて、高知の方でしたら酒類の価格は通常より千円アップと言われ唖然としました。最終的には大石会計が「飲み放題」で上手く纏めてくれました。料理は高松で有名な料亭「二蝶(女将は慶大卒の往年の卓球世界チャンピオン)」の仕出しで申し分の無いものでした。

今年の同窓会も、7月2日土曜日と同じく高松シンボルタワー19階で開催されます。高松シンボルタワーはJR高松駅から徒歩2分です。各支部の幹事の方、出張の機会が高松に来られる方、是非お立ち寄りください。お待ちしております。

### [母校及び同窓会本部・各支部一覧表]

- 土佐中学・高等学校 事務局 千頭裕 〒780-8014 高知市屋屋崎町1-1-10 (TEL)088-833-4394(FAX)088-833-7373(E-mail)tosa@tosa.ed.jp(HP)http://www.tosa.ed.jp/index.html
- 土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市屋屋崎町1-1-10 (TEL)088-833-4394(FAX)088-833-7373(E-mail)tosa@tosa.ed.jp(HP)http://www.tosaobog.com/
- 土佐中学・高等学校同窓会北海道支部 事務局長 川竹大輔 〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目北海道経済センター5F (TEL)011-251-8834(FAX)011-221-1660(E-mail)BY001116@nifty.com (財)高知県観光コンベンション協会北海道事務所
- 土佐中学・高等学校同窓会香川支部 事務局長 武山正人(担当:大石浩) 〒761-0113 高松市屋島西町1850-1 四国電力(株) (TEL)070-5750-2120(FAX)087-841-7809(E-mail)ooishi11737@yonden.co.jp
- 土佐中学・高等学校同窓会広島支部 事務局長 山崎迪子 〒732-0062 広島市東区牛田早稲田1-24-7-210 (TEL)082-227-2656(FAX)082-227-2656(E-mail)myamazaki@dion.enjoy.ne.jp(HP)http://www.geocities.jp/hiroshimashibu/
- 土佐中学・高等学校同窓会関西支部 事務局長 原田和人 大阪市北区天満橋1-8-30 OAPタワー1F アリコジャパン内 (TEL)090-1073-7822(E-mail)harada73@hotmail.com(HP)http://www.tosa-ko.org/kansai/
- 土佐中学・高等学校同窓会東海支部 事務局長 神宮美恵子 〒468-0075 名古屋市天白区御幸山1201 御幸山<sup>®</sup>-マツソン B-301 (TEL)052-837-5834(FAX)\*\*\*\*\* (E-mail)jjingu-m@crux.ocn.ne.jp(HP)http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/
- 土佐中学・高等学校同窓会関東支部 事務局長 金澤由里 〒251-0875 藤沢市本藤沢7-3-7 山中和正(24回) 気付

# 福知山線脱線事故を取材して ニュース・ディレクター 宮崎晶子 (67回生)



正確に予想している人はいなかった。一七人の尊い命を奪った大惨事「福知山線脱線事故」・・・。

その朝、私が担当したのは「プロ野球・古田選手が二

4月25日午前9時30分過ぎ、出社すると、社内はずで騒々しかった。一体何が起こったのか・・・。事態を把握していない私は、その数分後、机上のTVモニターが映し出す映像に釘付けになる。滅茶苦茶に破壊され、原型をとどめない電車・・・。



本安打の記念ボールをファンにプレゼントしたのだ。原稿を書きながらふと顔を上げると、局内至る所にあるモニターからは未だかつて目にしたことのない悲惨な映像が途切れることなく流れていた。線路の上に横たわる遺体、血だらけで呆然と立ちつくす人・・・。

結局、事態は最悪の方向に向かい、勿論私が担当した古田選手の新ニュースは放送されることはなかった。そして私自身、翌日に尼崎入りし、3週間にはわたってこの事故の取材を続けることになる・・・。

翌日、伊丹空港に降り立ったときには、すでにお昼を回っていた。その日の私の役目は「事故と同型車両」の取材。

JRがマスコミ各社の依頼に応じて、大阪・高槻駅に同型車両を用意したらしい。列車オタクでもなんでもない私に果たしてそんな役目が務まるのか。そう、そんな時のため

に、世の中には様々な「専門家」と呼ばれる人たちがいるのだ。

元新幹線の運転士だったというS氏とともにタクシーで向かう。実は、このS氏、同じテレビ局内でジャンボタクシーの運転手をしている人物。

我々をいつも取材先まで車で送ってくれる気のいいおじさんなのだが、たまたま昔新幹線の運転士をしていたというわけで、急遽「専門家」として取材に同行してもらうことになった。それ以来、S氏には在京各社から「電車の専門家」としての出演依頼が相次いだぞうだ。

話を元に戻すと、そんなS氏と向かった取材先には、テレビ局だけでなく、新聞・週刊誌など様々なマスコミが殺到していた。同型車両はすでに操車場に到着。我々が目指すは勿論「運転席」である。他社が電車の外観を撮影している間に、我々は迷わず運転席へ乗り込む。夕方のニュース番組は、常に「時間」との闘い。どんなに素晴らしい取材をしても、放送に出なければ意味がない。番組に間に合うまでの限られた時間の中で、いかに中身の濃い取材をする

かに全てがかかっている。

運転席に入ったものの、車しか運転したことのない私は何がなんだかわからない。S氏の手ほどきを受け、まずは「アクセル」と「ブレーキ」

の仕組みから。それをわかりやすくカメラマンに撮影してもらおう、それが私の仕事です。申し遅れましたが、67回生の宮崎と申します。現在、夕方のニュース番組のディレクターをしています。私の一日は、新聞チェックから始まります。朝日・毎日・読売・日経などに始まり、各スポーツ紙まで。毎日起きたニュースを取材したり、原稿を書いたりして、放送するというものです。普段は朝の9時半に出社し、新聞各紙をチェック。自分がどんなニュースを担当するかは、朝の会議で決まります。ひとつのニュースを何人のディレクターで制作するかは、ニュースの大きさによります。

チームが決まれば、どんな方向性のVTRを作るのか、何を取材するのか、誰のインタビューを撮るのか、などを話し合います。あとは、夕方の放送に向かって突っ走ります。ある人は取材に出、ある

人は原稿を書き、ある人はCGを発注したり、フリップを作成したり・・・と完全分業制です。その日起こったニュースを夕方に放送するために、人海戦術あるのみなんです。

話を元に戻しましょう。同型車両の取材を終えた私は「現場」へ向かいました。そこは焦げ臭い匂いが充満し、すでに広範囲にわたって警界による規制線がしかけていたのです。出来るだけ衝突した現場に近づこうと試みましたが、大きくブルーシートで囲われ、この目で現場を確認することは出来ませんでした。

「次の中継まであと一分です」。中継担当のディレクターが叫ぶと、「今、警察関係者の情報で、1・2両目にはあと数十人が取り残されて

今こんなことになっています



# 理事長就任のご挨拶

理事長 川崎幾二郎

私は、この3月末に3度目の理事長を突然仰せつかり老骨ながら我が愛する土佐中・高等学校の為に少しでもお役に立つならばと思ってお引き受けを致しました。

初めての理事長就任は、昭和23年3月のことです。  
第2次世界大戦に敗れ、世情混沌の中、教育制度も大変革時で土佐中学校も同年4月には新制土佐中学校・高等学校に生まれ変わりました。

当時の校舎は戦災で全焼、応急処置として払下げの旧兵舎を口章から現在の塩屋崎町に移転させ仮校舎として使っておりまして、従いまして順次本建築の必要性に迫られていた次第であります。

昭和24年、本建築2階建12教室を第1期工事として先ず立ち上げ、その後順次建築を進め、昭和27年11月に第6期工事の完成を以て一応の教室完成を見るに至りました。  
この間、工事半ばではありましたが前宇田耕也理事長の御尊父宇田耕一様に理事長交替をお願いしましたので、第

1回目は4年間の在任でした。  
第2回目は、昭和32年4月から昭和50年4月までの18年間でした。

この時は、50周年記念事業として校舎の手狭と設備の充実の必要性から校舎の改築が計画されました。昭和45年8月着工・昭和48年4月講堂兼体育館の竣工を以って3期工



事が完成、同年11月18日の創立記念日に創立50周年記念式と共に落成式を挙行しました。その折私は理事長として「この完成を機に土佐校創立の精神にかえり、思いを新たにし教育文化の向上と善良な校風の樹立に努めて益々土佐校創立の精神の高揚に励みたい」とご挨拶を申し上げたのを昨日のように懐かしく思い出

しております。

今回は私が後任を託した宇田耕也前理事長から在任30年を機に退任のお申し出を受け、次なる若い方への繋ぎ役としてお引き受けさせるを得なかつた次第です。

そしてこの度は、創立百周年記念事業として考えられていた校舎改築を、来る南海大地震対策の見地からも検討してゆく事となった訳です。

私は今、土佐中・高の限りない発展のために全力をあげていくという決意を新たにしております。

これまでの土佐中・高の発展につきましては申すまでもなく校内外の沢山の方々、特に振興会・同窓会の皆様のご理解と多大のご支援ご協力があったればこそ成し得たものであります。

関東支部の皆様におかれましては、母校の更なる発展のために、どうか今後とも一層のご支援ご協力を賜りますようお願いし申し上げて理事長就任のご挨拶と致します。

いるとのことですよ！」と記者「数十人？それは警察情報？本当か？」と、中継を担当するキャスターのS氏が確認を求め、「はい、警察関係者の情報です！」と記者が答える。「中継まであと30秒！・・・20秒前・・・10秒前・・・3・2・1・・・」。

現場周辺の空き地は、報道各社が用意したクレーン車が占拠し、周辺は異様な雰囲気をかもし出していました。テレビの中継映像などはこのクレーン車によって撮影されたものであることは皆さんもご存知でしょう。

生存者・遺族・JR・マンション住民・・・早速その日から、取材活動が始まりました。誰も一番心が痛むのは「遺族」の取材です。20軒以上の遺族を回りましたが、カメラ取材に応じてくれた人は結局一人も居ませんでした。それでも何か語ってくれる人

がいる限りドアをノックし続けました。「鼻からは、もう人間じゃなかった・・・」と一人娘の遺体と対面した時のことを語った父親。JRの対応の不備が指摘される中、涙を流しながら「あの人たちは本当によくやってくれた」と



訴える人。事故から2週間がたったくらいから、みんな少しずつ口を開いてくれました。今はもう、あの現場にマスキングが夜通し立つということもなく、かつての異様な雰囲気は解消されています。脱線事故が全国的なニュースとして取り上げられることも殆どありません。実はここ数日、あの頃取材した人たちがらちよくちよく電話やメールがくるようになってきました。

「最近どうしてるのかなあ・・・と思って・・・」って、みんな言います。事故を風化させないことが一番大切なことだと、話をしながら自分自身に言い聞かせる毎日です。

(編集部より)  
この事故で、54回生藤井誠さんが亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

# ふるさとへの手紙(五)

東京大学二年 宮村 悠資 (79回生)

早いもので、上京して1年以上がすぎた。2年生になり東京での生活にも慣れてきて1年前に比べていろいろな面で余裕が生まれてきたように思う。

去年1年を振り返ると、新しい人間関係を築くことに精一杯で、土佐の友達と会う機会があまり持てなかった。しかし、最近はそのような懐かしい友達とも会えるようになってきた。つい先日土佐の関東支部の同窓会に参加させていただいた。一度にあれだけ多くの土佐生高生に会えるのは卒業以来初めてだったため、とても感慨深いものになった。みんなが土佐弁を話し、土佐弁を聞くという当たり前のことが心地よく感じられ、高校の頃に戻ったような感覚になった。



やっぱり高校時代の友達は特別だと思っただし、このつながりは一生大事にしていきたいと思っただ。また、同窓会では諸先輩方からいろいろなお話

を伺うこともでき、貴重な経験となった。

大学生生活について少し。東大では、1、2年のうちは教養課程とあって、専門的な勉強をほとんど行わない。そのかわり、文系の学生もある程度理系科目を履修しなければならぬし、その逆もしかりである。2年生の夏に最終的な進学先が決定するのだが、そこまでの成績と本人の希望次第では、文系から医学部に、理系から法学部に進むことだってできる。こう言つと、大変な学生生活のように聞こえるかもしれないが、単位と力りキユラムが割合ゆるく設定されているため、大部分の学生は2年まで時間と体力を持って余すことになる。

それではその分どうするかということになるが、周りを見渡してみると、3年からの専門的な授業に向けて勉強する人、自分なりに輪を広げて視野を広げようとする人、学生時代が最後だからとスポーツに打ち込む人など様々であり、これらは完全に学生の自由である。このシステムは、学生の自主性を重んじ、学生に本筋に進みたい道を見つけ

させるという学校側の意図なのだろう。自主性を重んじて、それに

より学生の才能を伸ばすという方針は、土佐高が掲げる理想と共通しているように感じる。

僕について言つと、大学では学部やサークルにおいて多くの友人、先輩に恵まれている。個性豊かな仲間との付き合いは、楽しいだけでなく、時に考えさせられることもあり、とても刺激が多い。最近就職活動中の先輩にいろいろのお話を伺う機会を得ている。お話を伺ううちに、企業もいなくなつて思えるようになってきた。絶対に法律の道に進みたい、と考えていた高校の頃の自分から考えると信じられないことだし、1年生から妄信的に法律の勉強をしていては有り得なかつただろう。こつした視野が少し広まった自分が少し誇らしいし、そのきつかけとなった仲間との出会いには感謝している。今後自分の考えがどう変わっていくかわからないが、この機会を生かして自分の将来について真剣に考えたいと思つてい



## お知らせ

ガーナに行つてみませんか?

第4回ガーナよきこい祭り  
は11月12日に開催されます。

参加ツアー日程

11月7 14日(予定)

お問合せ先

中田昌志 (35回生)

090-8849-3651

e: nakata@ak.wakwak.com

中村明裕 (35回生)

042-584-1207

akihino@akanura.email.ne.jp

## お悔やみ申し上げます

現時点で逝去の確認された方を順不同で掲載しています。

- 17 山崎 忠政 2004/11/17
- 23 中澤 浩 2005/1/4
- 25 久保 博義 2004/8
- 26 B 谷本 英輔 2002/4/16
- 29 H 倉橋由美子 2005/6/10
- 32 T 小倉 璋 2003/12/23

## 倉橋由美子さん

29回生で作家の倉橋由美子さんが亡くなりました。平成17年6月10日逝去。享年69歳。

倉橋さんはこれまで何度か、関東支部総会に出席されたり、筆山のインタビュ記事に登場されたりした。

泉谷関東支部長は倉橋さんと同級生で、泉谷さんの「同級生紹介」というような文章にも他の同級生と一緒に登場されていたと記憶している。

筆山4号の山城正堯さん(30回生)によるインタビュ記事は同窓生にしか書けない心温まる記事であった(関東支部ホームページの倉橋さん逝去関係記事の部分に再掲されています)。

総会に出席された時、著書にサインを貰おうとした後輩が倉橋さんと話をして、まったく普通の土佐のおばちゃんと話している感じで驚いた、というようなエピソードもある。

しかし倉橋さんの作品は、純文学の中でも優れた知性派文学として評価されている。知的で非日常的な倉橋さんの作品と素生活は違っているので、かつて新聞のインタビュ記事で倉橋さんがこつ語っていたのを記者は鮮明に記憶している。「小説は所詮虚構の世界。実生活とは違います。」(筆山編集部 記)



私のところに来る年賀状を調べてみると、傾向は同じであった。私も全く同感である。しかし、私には年賀状改革を

先日、私の土佐中学時代のクラスメイトのG君からお手紙を頂いた。題して『年賀状改革を訴えます』。G君は教員として高校の校長まで勤め上げ、その後地元教育委員にも任じられた教養人である。彼は、「年賀状の交換は素晴らしい習慣である。年賀状には挨拶文だけでなく、本文を書くともっと素晴らしくなると思つ」と主張していた。そして彼のところに届いた年賀状を分析すると、挨拶文に日付、署名だけのものが約半数あった。ここに、出来る限り本文を記入しようというものである。



# スマートな 二十四回生 山中和正 いごっそう

## 年賀状

訴える勇氣はない。私は毎年新年に年賀状を見るのを楽しみにしている。古い付き合いの人の顔を思い浮かべながら、一枚一枚丁寧に読んでいく。ごく最近に会った人でも同じである。そんな人から毎年年賀状を頂くだけでも有難いのに、その人に改革を訴えて、翌年からの年賀状交換が途絶

えるのは怖い。本文がないのが多いのは大勢の人に同文の年賀状を印刷するのに、共通の話題を見つけるのが難しいからであろう。それなら、ほんの二、三行でもいいからコメントを書き加えるといい。私のところへそのようにして出してくれる人も多数いる。私もそうし

ている。その上、私は形式的な印象を避けるために宛名は筆で書き添えている。それにしても、話題の選び方は難しい。私はある年、前年の外国旅行を話題にして年賀状を書いたところ、さる友人から注意を受けた。「病気や経済的な問題で行きたくても旅行に出られない人の気持ちに配慮しろ」というのである。この人に言わせると、『チョー元氣です』というのはいけない。子供の自慢も、好調な事業の話も勿論いけない。「ホラ、他人の不幸は蜜の味」というでしょう。世の中ってそんなものですよ」と言っていて彼は笑った。この意見には驚いたが、説得力がある。しかし、あまり深く配慮してしまつと、何も書けなくなる。さりとて不幸の話題も新年には適切でない。私は悩んだあげく、あまり気にせず、少し気にして、自然体で臨むことに決めた。

来春、皆さんのお手元に私の年賀状が届いたら、そのようないきさつで出来上がったものであることを思い起こしてもらいたい。  
(写真は物議をかもした南極旅行の写真)

### いごっそうの一言

「息子の自慢はいけないが、孫を話題にするのは差し支えない」という意見を耳にする。それに便乗して書いた十年ほど前の私の賀状である。諸兄の忌憚のないご意見を聞きたい。(写真は4歳の筆者)

賀正 昨年のある日、4才になったばかりの孫娘に我が家のおばあちゃんが聞いています。『ちゃんはいつ生まれましたか』。当然「誕生日は何日ですか」という質問です。孫娘はかわいい丸い眼をくるくるまわしながら考えていました。彼女の小さな頭の中は風のように動いていたことでしょうか。やがてこう言いました。『エート、エート、お母さんが病院へ行って間もなく生まれました』。なんと、正しいお答えではありませんか。こんな日々を送っている私達です。

今年もどうぞよろしくお願ひします。

x x 年新春



小料理 赤坂「土佐」

港区赤坂3-13-17  
新日本パレスV 赤坂 4階  
電話 3586-9454

季節のふるさとの味 土佐酒蔵

銀座7-12-4 友野本社ビルB1  
電話3545-3855 銀座第一ホテル通り

# ★出版レーダー★

市川忠彦 (39回)	「誤りやすい異常脳波」医学書院 本体五五	2005.04		
大原健士郎 (24回)	「精神科医の繰る幸福論：「あるがままの自分」から「あるべき自分」へ」	亜紀書房 本体一六	2005.05	
公文俊平 (28回) 監修	「テレコム・マルチタウン：アメリカの情報通信政策は失敗したのか」	N-TT出版 本体二八	2005.02	
倉橋由美子 (29回)	「よもつひらちか往還」	講談社 本体四四八円	2005.03	
「あたりまえのこと」	朝日新聞社 本体五二	2005.02		
黒鉄ヒロシ (41回)	「色いさ花骨牌」	講談社 本体一六	2004.11	
塩田湖 (40回)	「郵政最終戦争」	講談社 本体七四四円	2005.05	
竹内靖雄 (28回)	「戦争とゲーム理論の戦略思考」			
田島征三 (34回)	「ガオ」	福音館書店 本体八	2005.02	
「祇園祭」	童心社 本体一七	2005.03		
野田正彰 (37回)	「砂漠の思想：リビアで考えたこと」	みすず書房 本体二六	2005.02	
「陳真 戦争と平和の旅路」	岩波書店 本体一八	2004.12		
坂東真砂子 (51回)	「夢の封印」	文芸春秋 本体四七六円	2005.05	
「夢茶室道」	集英社 本体七六二円	2004.12		
「善魂宿」	新潮社 本体四七六円	2004.12		
「月待ちの恋」	新潮社 本体一六	2004.10		
森岡浩 (55回)	「字の新聞：あなたの名字に関するオモロ情報てんこ盛り」	宝島社 本体九三三円	2005.03	
高遠裕子 (60回生) (訳)	「心のなかの幸福のパケツ：仕事と人生がうまくいくポジティブ心理学」	日本経済新聞社 本体二二	2005.05	
「いま 現実をうかまえる！新世代・優良企業のビジネス法則」	日本経済新聞社 本体一九	2005.01		
「無敵のマーケティング最強の戦略」	阪急「ミニケース」	本体一四	2004.11	
鍋島高明 (30回生)	「賭けた儲けた生きた：紅花大塚からアラビヤ太郎まで」	河出書房新社 (発売)	本体一	2005.04
(五台山書房 河出書房新社)	「風景と記憶」	河出書房新社 本体九五	2005.02	
「グッド・ルッキング：イメージング新世紀へ」	産業図書 本体三八	2004.12		
森岡正博 (52回)	「感じない男」	筑摩書房 本体六八	2005.02	

## 「こ」からは雑誌に掲載されています

大原健士郎 (24回)	「対談 自殺予防対策には一刻の猶予もない：死生観の戦後史から考える」	世界 734	52-61	2004	
公文俊平 (28回)	「国際大学グローバルコム：情報社会学シリーズ「地球劇場」の時代へ 第1回 情報社会学・序論」				
倉橋由美子 (29回)	「偏愛文学館(7)・最終回」	「金沢」吉田健一	群像 60(1)	428-434	2005
「偏愛文学館(6)「マリアンヌ・マシニル」	群像 59(12)	294-300	2004		
「偏愛文学館(5)「架空の伝記」	群像 59(11)	336-341	2004		
「残酷にして甘美なる成熟への道のり」	婦人公論 89(6)	20-23	2004		
黒鉄ヒロシ (41回)	「本田組があったな」	現代 36(2)	184-188	2005	
「どろろ骨牌(フルタ)」	本 30(1)	30-32	2005		
「私の読書履歴(1)黒鉄ヒロシ：人は言語を獲得してから死ぬ瞬間まで」	すべてを説明したがるロッキーを抱えている	文学界 58(11)	274-278	2004	
塩田湖 (40回)	「FOCUS政治 郵政法案を左右する「強すぎる参議院」	少数与党化背景に政権に強い牽制力」	週刊東洋経済 5946	144-145	2005
「FOCUS政治 国民の支持で理解こそ郵政民営化の道を開く」	冷めた空気を助長する首相の粗い答弁」	週刊東洋経済 5933	102-103	2005	
「FOCUS政治 満4年の長期政権の裏で小泉内閣立ち枯れ論 郵政民営化巡る戦い暴走で中央突破も」	週刊東洋経済 5933	118-119	2005		
「FOCUS政治 またも骨抜きは決着か、三選」	一体改革の行方」	週刊東洋経済 5927	130-131	2004	
「FOCUS政治 かくも長い対抗馬不在 自民「中」階級」	沈黙挑戦続ける首相に3割政党の危機意識」	週刊東洋経済 5922	118-119	2004	
「今日のヒートマンストーリー」	大衆演劇のメカカ「嘉穂劇場」復興のストーリー (一)」	潮 551	266-273	2005	
「政治 議会政治の再生・活性化は進展したか」	小泉改革の「議院内閣制の危機」	改革者 536	40-43	2005	
「キーパーソンが語る激動の90年代」	金融と政治(中)大原一三平野貞夫 住専国会、金融国会の知られざる舞台裏」	金融ビジネス 241	86-89	2005	
「キーパーソンが語る激動の90年代」	金融と政治(下)武村正義 元大蔵大臣/西村吉正 元大蔵省銀行局長 護送隊団行政が首を立てて崩れ始めた頃」	金融ビジネス 240	86-89	2005	
「数値目標と政治の言葉」	文芸春秋 83(4)	監増	206-208	2005	

「ブックレビュー」	注目の1冊「福沢諭吉の真実」	平山洋著	「ミニタリー」	はりの面白さで「福沢の最大の謎」を解明」	週刊東洋経済 5920	138	2004	
「地方のリーダーが日本を変える(最終回)」	「三位一体改革」を突破口にする国を変える	地方が主役の「壮大な実験はこれから」	二一リーダー 17(12)	34-38	2004			
野田正彰 (37回)	「家庭を守る抑制の人」	週刊タイムズ 98(12)	53-57	2005				
「漂流し孤立する子どもたち」	長崎女児スマン殺人をめぐり人権と教育」	41	5-14	2004				
森岡初男 (41回)	「座談会 キヤリアンテーションを学ぼう」	大学時報 53(298)	14-29	2004				
高岡等 (48回)	「質疑応答(抜粋) 精神障害の臨床」	日本医師会雑誌 132(13)	1651-1658	2004				
「大学病院における精神科急性期入院医療のクリニックパスの現状」	精神医学 46(11)	1169-1176	2004					
回村甫 (32回)	「追悼 國分正胤先生を送る」	「クワリト工学」	42(9)	3-5	2004			
「追悼 來るべき社会に活躍できる人材の育成」	新設地方単科大学の挑戦」	大学と学生 3	2-8	2004				
大塚寿昭 (43回生)	「文書より危険なデジタル情報 高めめ職場のセキュリティ意識」	企業(S)デジタル情報における危機管理」	インジメンツの役割	Omni-management 13(3)	8-11	2004		
高山宏 (42回)	「「ローンペリ」江戶参府随日記」	国文学 解釈と教材の研究 50(1)	57-61	2005				
「翻厄」	「はるか」	37(1)	172-194	2005				
「追悼 種村季弘終りの日はまじ」	種村先生追悼」	「リリカ」	36(11)	26-29	2004			
杉山雄一 (41回生)	「ホログラムメモリーにおけるデータ位置検出の高速処理法の検討」	電子情報通信学会技術研究報告 104(491)	7-12	2004				
「「ランスポーター」の通信系型型」	業務動態の個人案」	尾池和夫 (34回生)	「会長・総長インタビュー」	「自由の学園」の伝統を維持しつつ知を世界に発信する使命を果たす」	尾池和夫 総編	文部科学教育通信 115	14-19	2005
「2000年鳥取県西部地震の余震域とその周辺における断層と断層岩」	未知の活断層の検出に向けて」	地震ニュース 682	36-44	2004				
「1995年兵庫県南部地震から10年をむかへ」	平防時報 220	12-17	2005					
「巻頭言 高等教育のマネジメントデザイン」	IDE 465	2-4	2004					
「巻頭随筆 丘の上 日本語の「こ」」	三田洋雄 1070	5-7	2004					